

「JENESYS2019」中国青年代表团 参加者の感想（抜粋）

グループ1（公務員）

◆日本はゴミの減量と分別に対して多くの手法を有しており、我々が学び参考にする価値がある。主に以下の三点である。

1. ゴミの減量の意識が人々に深く根付いている。人々が自発的にゴミを分別し、ゴミの減量が社会の共通認識となっている。

2. ゴミ処理施設が、社会においてゴミの循環利用を学ぶ窓口となっている。開放的で親しみやすく、ウィンウィンのグリーン処理システムが実現している。

3. 家庭の生ゴミを家庭で処理し減量する設備が印象深い。これは中国でも普及できると思う。

◆「JENESYS2019」中国青年代表団の一員として訪日し、視察学習する機会に恵まれたことをうれしく思う。多くのものを目にしたが、主に以下の3点を体感した。

1. 日本は明確な特徴を持つ国である。飛行機を降り、日本の国土に降り立つと、まず目に飛び込んでくるのは清潔な道路、一点の曇りもないガラス、ピカピカの車である。我々を迎えてくれるのは人々の優しい笑顔と心からの挨拶で、誰しもが日本に対する第一印象は良いものとなる。これは日本国民全体が世界に与える印象、努力・自律・友好を代表するものだと思う。中国社会も経済の高度成長に伴って、総合的国力や経済力は世界のトップクラスとなり、飛躍的な発展を実現した。こうした状況において、いかにして国民の資質を向上させ、東方の大国の気概を示し、世界からリスペクトされる国民を作り上げていくのか、日本に学ぶべきである。

2. 両国間には相互に学び、長所を生かして短所を補える部分がたくさんある。今回、我々は静岡県掛川市を訪問し、環境保全や農業振興などに関する内容を学んだ。かつての日本が同じように経験した、高度成長に伴うマイナス面の影響も知ることができた。しかし、日本人は委縮したり、恐れることなく、自らの知恵で、さらには数世代に及ぶほどの時間をかけてまで、ゴミの処理や生態系保全などのさまざまな難題を解決してきた。これに対し範囲を狭めて、例えば北京市の発展の角度から見てみよう。北京は特大型の都市であり、総合的な実力は全国トップであるが、しかし、北京にはまだ広大な農村地帯がある。この有限で貴重な土地をいかにして集約し、大規模化し、土地の生産効率を高め、地域の特色ある農業や生態系農業を発展させていくのか、また、いかにして各地区の細部の管理レベルを高めて、路地裏まで整備し、人々の暮らしの幸福感を高めていくのか。今回設定された視察学習プログラムは、どれも我々に新しい視野や新しい発想を与えてくれた。学習を通じて参考にすべきは、日本が現在歩んでいる“協道”を我々はできるだけ避け、日本がかつて味わった“損失”を我々はできるだけ受けないようにすること。こうすることで、我々は発展のスピードを加速し、発展の質も上げることができる。また同時に、他の国や地域に対しても、中国が手本となり北京が見本となって、共同发展を促進していけるようになる。

3. すべての活動を子供の頃から取り組み、源泉から取り組む。“天にそびえる木には必ず根があり、山を流れる水には必ず水源がある”、日本が今日の成功を成しえたのは、日本の教育が密接に関係している。子供の頃から自律意識や独立心を養い、発展の理念や政策の決まりを子供の頃から身体に染み込ませ、自ら率先して自覚して行動するように育てる。これが重要な方法であり、未来を勝ち取る方法である。我々は真摯に再認識すべきであり、科学的な計画設定をすべきである。

◆今回の訪日で感じたことは、発展中の中国と日本とは、理念において多くの相似点があるということだ。例えば、教育の重視、環境保護の提唱、人と自然との調和共生を重視する点などである。しかし、掛川市

の訪問で感じたことは、教育や養育を都市の発展目標とすることが、中国ではほとんど見られないという点だ。これは、社会の未来は次世代の人々のものであり、彼らに良い教育を与えることで美しい未来が作れる、ということを我々に教えてくれる。

また、中国でも現在、汚水処理施設やゴミ処理施設の建設に力を入れている。しかし、掛川市のように科学的な実践基地とする事例はほとんどない。直接見て体験して認識させることで、環境保護の理念を人々に、特に生徒たちに根付かせていくこうした手法は、参考にする価値がある。

次に、都市と農村の建設について感じた点である。私が暮らしているのは北方地区であり、その環境は掛川市とは当然大きく異なる。しかし、掛川市の清潔さ、秩序、環境の美しさ、都市の管理などが深く印象に残った。

◆今回の訪日では、公務員として主に日本の環境保護施設やゴミ処理に関する施設などを視察した。最も印象に残ったのは、日本国民の環境保護意識はまるで生まれつき身につけているかのように、非常に強く自覚している点である。

実際にこれは、日本政府が国民に教育を行い、徐々に浸透していった結果である。我々が視察した環境施設は現地の小学4年生がいつも見学に来る場所であり、日本は国民に対する環境意識教育を子供の頃から行っていることが分かる。この点は、非常に学ぶべき価値がある。子供の頃から環境保護意識を確立させ、全国民にPRをすれば、社会全体に環境保護の風潮が形成される。

◆掛川市の“ゴミの減量対策”を学び、日本政府や企業や住民の環境保護に対する大いなる貢献に、感服した。また、ゴミの排出削減の重要性と緊迫性を強く意識した。住民は衣・食・住・行動のどれにおいてもゴミ減量の強い意識を持っており、実際の行動に移している。これは中国国民にとって、非常に学ぶべきであり実践すべき点である。中国は今まさにエコ社会を建設中であり、環境保護、とりわけゴミの減量に関しては、国民一人一人の意識に浸透させる必要がある。今後、私は環境保護政策をしっかりと守り、ゴミの排出削減を常に心に刻んでいく。例えば、できるだけマイバッグを持参したり、過剰包装を断ったり、ゴミの分別をきちんと行うなど、環境保護のために自らも努力する。

グループ2（農村青年幹部）

◆道の駅掛川の視察をする際は、中国国内の高速道路の有料サービスエリアのようなものだと思っていたが、実際にはその機能は中国より行き届いており、この点は中国も参考にできると思った。一部の経済的に立ち遅れている地区で、現在よく見られるような、どのサービスエリアも同じような食品や商品を置くやり方を変えて、その地に見合ったサービスエリアとして当地の特産品や特色のある商品の販売所を設けることは可能である。

環境保全管理の点からみると、中国の将来性は非常に大きい。日中両国は国情が異なるとはいえ、これに関連するいくつかの手法は学ぶことができる。また、日本の“六次産業”の経済モデルは中国の一次・二次・三次産業の融合発展と手法は違っても効果は同じという側面がある。我々も自分の所属する地区で用地の統合集約計画を実施し、土地のメリットを最大限に発揮させ、より大きな経済発展を進めていくことができる。

◆今回の訪日代表団の一員となれたことを嬉しく思う。この数日間の視察学習の感想を以下にまとめる。

東京から静岡への移動で最も印象深かったのは、まさに環境衛生の基準が驚くほど高いことである。整備された清潔な道路、非常に少ないゴミ箱、住民は家の周囲を綺麗に掃除し、脇をすり抜ける車はどれもみな輝くほど清潔である。また同時に、日本の地面は舗装化率が高いことに気が付いた。舗装できない場

所には砂利を敷きつめたり、芝生を植えるなどして、土埃が起きるのをうまく防ぎ、環境の維持と大気の高質の向上に役立っている。私が仕事をしている霞雲峰郷は、現在まさに生態系保全地区を建設中で、居住環境整備の審査を控えている。これらの手法はちょうど参考にすることができ、農村地区の現在の環境問題を解決してくれるものである。もちろん、日本はこの点でも国民の資質が主導しているのであり、我々が日本の現在の環境レベルに達するためには我が国の国民の資質を向上させ、環境意識を高めることが必須である。

次に、日本人の文化と礼儀も学ぶべきであり、我々は反省すべきである。かつて唐の時代、我が国の文化や礼儀等は日本が学び、真似る対象ですらあった。しかし現在では、日本は中華文化の基礎の上に発揚し、懸命に努力して、人や物との接し方や行動の面でも礼節を保ち、謙虚で謹厳である。こうした最上の礼儀や態度は、内面から生ずるものであり、飾り気もなく、自然と尊敬の念が湧いてくる。

さらに、日本の近代的な農業の自動化やテクノロジー化のレベルも驚くほど高い。9月11日の午前、我々はトマト農場を視察した。水量や室温等はすべてコンピュータ制御され、完全に自動化されていた。中国の農村、とりわけ私の所属する農村地区では、これは手の届かないレベルであり規模である。これは帰国後に広く伝えていこうと思う。自分の業務の範疇で、さらにはより広い範疇で、Wechatの公式アカウントやインターネット、講義などの方法を通じて、重点的に推薦し広めていきたい。

もし、私の地区で中日友好交流に関する活動があれば積極的に参加し、より多くの友人や同級生、同僚も連れて参加したい。WeiboやWechatなどのSNSを利用し、訪日の見聞や感想を広く発信し、より多くの人々に日本を理解し日本を好きになってもらいたい。

◆中国青年代表団の一員として訪日し学習できたことを光栄に思う。

日本の秩序ある社会管理や礼儀、風習などが、とても強く印象に残った。さまざまな面で学び参考にすべき点が数多くあった。特に掛川市の農林課の講義では、掛川の農業産業の発展モデルを学ぶことができた。これは、中国の農業産業化とは異なる部分も似ている部分もある。日本が推進している“六次産業”のプロセスにおいて十分な市場調査のもと、市場のニーズを理解し、精密な分析も行き、需要(下流)から攻めている点は、中国のサプライサイド・リフォームに似ている点がある。日本では行政が農家の指導も同時に行い、道の駅などのインフラも提供し、当地の農家に販路を開かせ、一連の販売網が出来上がっている。つまり、日本は農業分野においても、生産から販売までの産業チェーンがうまく整っており、市場のニーズを効果的に満たすと同時に、農家の権利と利益も効果的に保障している。農家の増産増収に効果を発揮している。こうした成功の実績は、中国が推進している一次・二次・三次産業の融合発展のプロセスにおいても研究し学ぶことができ、お互いに共同の進歩を促進することができる。

◆日本の近代的な設備と農業管理に、大いに啓発された。トマトの苗の栽培から水やり、施肥、収穫まで、人の手による部分は基本的に少なく、十数人の作業員で1万平米の大型ハウスを管理している。さらに休暇もあり、これが正常な感覚である。私の所属する村ではまだ数十ムー(1ムー=約6.67アール)の土地を集団で管理している。将来、日本の近代的設備管理を学び、近代的農業の大型ハウスを建設し、強大な村の集団経済を作り上げるつもりである。

中国の農村も現在、居住環境整備を実施しており、美しい庭づくりや、分別ゴミ箱を設置して農村のゴミを一か所に集約する方式が実現している。静岡県掛川市は、日本全国でもゴミの発生量が非常に少ない都市である。まず、行政の政策と財政面の支援があり、次いで、その源泉、つまり住民自身の意識の向上である。自律と規則意識はとても重要である。最後に、社会の各界、各方面の共同努力だ。共同管理、共同認識することが、持続的なメカニズムを確立する重要なカギとなる。

◆中国青年代表団の一員として今回の友好訪問に参加できたことを嬉しく思うと同時に、今回の機会を提供してくれた祖国と日本の両国に心から感謝する。期間は短かったが、収穫はとても大きかった。

農村青年幹部の団員として、主に静岡県掛川市の農業の状況について講義を聞き、視察した。日々深刻化する高齢化や後継者不足、耕作放棄地の増加などの問題に対し、掛川市では『人・農地プラン』を実施して積極的に立ち向かい、問題を解決している。同様に、農業大国である中国も一部の地区で同様の問題に直面しており、我々もまた多くの施策を通じて積極的に問題に対応している。農地流動化政策は、まさにこうした問題を解決するために誕生した。農家が自身の請負権利のある土地を、大規模農家や提携農場や農業団地に権利移転することを奨励し、農業の大規模経営を発展させ、土地の集約管理を実現するものである。したがって、我が国の政策と掛川市の政策は、方法は異なるが同じ効果がある。

道の駅の特産品直売所のメカニズムも、参考にする価値がある。例えば、農協職員が農家に行って食品安全基準の検査をし、基準に達しているもののみ参加できるようにすれば、消費者が良質な製品を購入できるようになる。我が国では近年、食品の安全面を非常に重視しており、我々も自ら努力して学び、自分自身を成長させていくことができる。